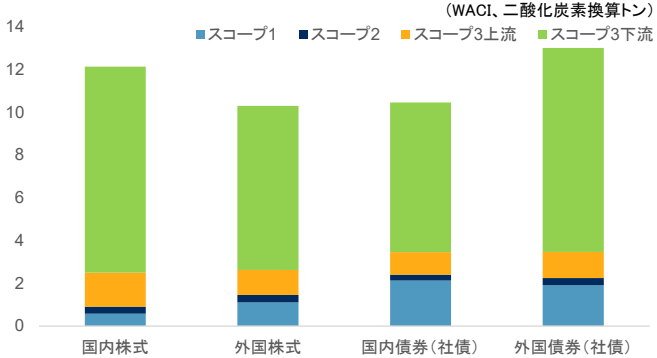
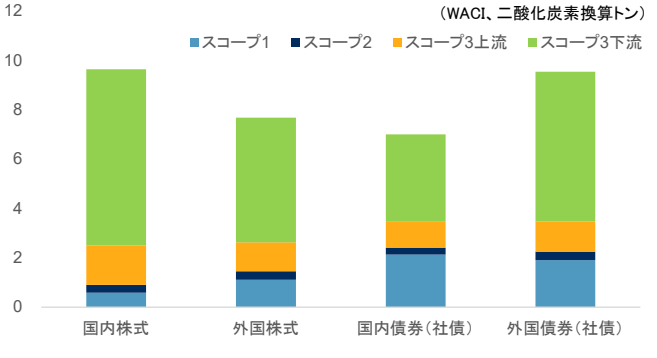


『2020 年度 ESG 活動報告』正誤表

本誌に下記のとおり、誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

頁	誤	正
<p>54 頁 「カーボンインテンシティ（炭素強度）分析」2 段落目</p>	<p>GPIF の株式・社債のポートフォリオにおいて、WACI がもっとも大きいのは外国の社債です（図表 9）。ただし、これは業種の偏りによる影響が大きいと考えられます。外国の社債は温室効果ガスの間接排出量が多い「エネルギー」「一般消費財・サービス」「素材」の比率が高いことから、国内の社債に比べて WACI が高くなります。株式でも同様の傾向が見られ、今回からスコープ 3 下流を分析対象としたことで間接排出量が多い「資本財・サービス」「一般消費財・サービス」「素材」が高い比率を占める国内株式が、カーボンインテンシティでも外国株式を上回る結果となりました。</p>	<p>GPIF の株式・債券のポートフォリオにおいて、国内株式と外国社債の WACI が大きい結果となりました（図表 9）。国内株式では、WACI のうち 74% がスコープ 3 下流に起因するものとなっており、これは、間接排出の多い「資本財・サービス」「一般消費財・サービス」「素材」への配分が比較的高いことに起因していると考えられます。また、外国社債については、国内社債と比べて、カーボンインテンシティが多く業種で高い傾向にあることに加えて、カーボンインテンシティの低い「金融」への投資比率が低いことなどが影響をしています。</p>
<p>54 頁 【図表 9】株式・社債の加重平均カーボンインテンシティ（WACI）</p>	 <p>(WACI、二酸化炭素換算トン)</p> <p>■ スコープ1 ■ スコープ2 ■ スコープ3上流 ■ スコープ3下流</p> <p>国内株式 外国株式 国内債券(社債) 外国債券(社債)</p> <p>(出所) S&P Trucost Limited© Trucost 2021</p>	 <p>(WACI、二酸化炭素換算トン)</p> <p>■ スコープ1 ■ スコープ2 ■ スコープ3上流 ■ スコープ3下流</p> <p>国内株式 外国株式 国内債券(社債) 外国債券(社債)</p> <p>(出所) S&P Trucost Limited© Trucost 2021</p>